

畜産の現状と指導の必要性

岡山県常勤畜産コンサルタント 上原茂喜

畜産コンサルタント事業も開始以来四年を経過しました。

この事業の当初には事業推進も極めて困難で、本事業の趣旨もなかなか理解されなかつたのであります。

が、幸いに昭和四十二年度には一八地区の準会員を得まして、酪農の部では九

市町（熊山、北房、落合、津山、加茂、

勝北、作東、西大寺、奈義）、肉用牛の部四市町村（野馳、湯原、上斎原、新見）、自給飼料は減少している。

豚の部二町（長船、佐伯）、鶏の部三市町（日生、笠岡、津山）で診断農家と中核農家を含む地域集団の診断・指導・ア

フター・ケヤー等を実施したのであります。

現地を巡回し数多くの問題点を知り、今後ますますコンサルタント事業の必要性を痛感した次第であります。

二、経営上の問題

（一）土地基盤拡大の希望が多い。

（二）多頭化せられているが、一頭当たり早く、レベルが揃っている。

（三）自給飼料は減少している。

（四）多頭化によって一頭当たりの産乳量が落ちているものが多い。

（五）自給飼料貯蔵がないため特に多い。

（六）乳牛個体が揃っていないため能力差が大きい。

（七）経営上の記帳や生産上の管理記録が度合に相違がある。

（八）一般的に高令者ほど科学性がなく惰

られた問題点を見ますと、次のとおりで、

今後の指導事業推進上の参考としていた

（一）農家の自主性と積極性の有無によつて、経営内容に大差がある。

（二）後継者の有無によって、農家の改善

（三）一般的に高令者ほど科学性がなく惰

られた問題点を見ますと、次のとおりで、

今後の指導事業推進上の参考としていた

（一）農家の自主性と積極性の有無によつて、経営内容に大差がある。

（二）後継者の有無によって、農家の改善

（三）一般的に高令者ほど科学性がなく惰

られた問題点を見ますと、次のとおりで、

今後の指導事業推進上の参考としていた

（一）農家の自主性と積極性の有無によつて、経営内容に大差がある。

（二）後継者の有無によって、農家の改善

（三）一般的に高令者ほど科学性がなく惰

られた問題点を見ますと、次のとおりで、

今後の指導事業推進上の参考としていた

（一）農家の自主性と積極性の有無によつて、経営内容に大差がある。

（二）後継者の有無によって、農家の改善

（三）一般的である。

以上は乳牛の場合を例示したのですが、他の家畜においても同様の傾向があります。

（二）飼料の配合給与技術に乏しい。

（三）育成技術も惰性的で進歩がない。

（四）乳牛個体の見方がわからない。

以上の問題が理解されていないので、経営を

他の家畜においても同様の傾向があります。

（二）飼料の配合給与技術に乏しい。

（三）育成技術も惰性的で進歩がない。

（四）乳牛個体の見方がわからない。

以上の問題が理解されていないので、経営を

</

岡山県乳用基礎牛の指定

※※※



岡山県の乳用牛飼養頭数は、昭和二十年の三、〇〇〇頭から昭和三十八年に三万一、〇〇〇頭と一〇倍を越す大きな伸びを示し、全国平均の伸びを大巾に上回ってきましたが、ここ数年は社会、経済の状勢の変化から頭数は伸び悩み、むしろ減少の傾向を示してきました。しかし、最近の動向をみると、生乳の農家手取価格の上昇などに刺激され、酪農経営の安定のために規模拡大の意欲が旺盛となり、酪農家戸数の減少が続いているにもかかわらず、頭数は三万二、〇〇〇頭（四十一年八月一日現在）と増加の傾向を示しています。

一方、酪農経営の収益を大きく左右する乳牛の能力について、最近の一頭当りの県平均産乳量をみると、四、五〇〇kgと

水準に比べるとやや下回っているとみらされます。そこで、全国水準に迫いつき、追い越すためには、産乳量の増加はもちろんのこと、乳質の改善を図り、飼料の利用性にもかかわらず、牛の体格体型の齊一化、特に乳房頭の形狀、付着および後軀の改良を図ることが必要となります。

また、乳量を増加させるためには、体格の大型化が必要ですし、規模拡大に伴って飼養管理労働を省力化するため、機械化がますます要求されて来るので、乳頭数は三万二、〇〇〇頭（四十一年八月一日現在）と増加の傾向を示しています。

改良を進めてゆくことが求められています。

県では乳用牛の改良を進めるため、北

海道などの先進県から毎年優秀な種雄牛

を導入し、県酪農試験場を中心として改

良増殖を図っております。一方、生産者

は、最近の一頭当りの県平均産乳量をみると、四、五〇〇kgと

少しが続いているにもかかわらず、牛の体格体型の齊一化、特に乳房頭の形狀、付着および後軀の改良を図ることが必要となります。

さらには、最近の乳牛肉利用の増加か

ら、産肉量の面からも体積のあるものに

改良を進めてゆくことが求められています。

県内では飼養されている乳用雌牛で、

次のような資格をすべて備え、そして基

礎牛の検査に合格したもの。

○ 血統登録牛で、少くとも三代にわた

りその血統能力が明確であるもの。

（基礎牛の資格）

本県内では飼養されている乳用雌牛で、

次のような資格をすべて備え、そして基

礎牛の検査に合格したもの。

○ 基礎牛であつて、産子が二頭以上基

（または名譽基礎牛）指定証明書」と、

「岡山県乳用基礎牛」の指定を行なう

ことになりました。

かなり改良が進んできていますが、全国

とおりとなつており、基礎牛として指定

されると、知事は「岡山県乳用基礎牛

（または名譽基礎牛）指定証明書」と、

「岡山県乳用基礎牛」の指定を行なう

ことになりました。

か

肉牛の肥育

(第一回)



岡山県普及教育課主幹
林正夫

三、肥育の型態のいろいろ

れる」と述べている。

(2) 去勢牛の肥育

去勢牛の肥育は若令化が著しい。将来はあらゆる肥育型態に優先する見通しであることに異論はないだろう。その利点を挙げて見ると次のようなことであろう。

① 肥育効率が高いこと

子牛から肥育するので、肥育効率が高い。兵庫農大福島教授によれば、「どの家畜でも幼令期——若令期——壮令期と月令が進むにつれて、増体に要する飼料量は多くなるのが原則である」と、第一二表を示して、「若令肥育は去勢牛でも雌牛でも、牛の旺盛な生長力を利用して能率的に肉牛を作る肥育法であるから、理論的には最も合理性の高い肥育法とい

② 渋野 食料主体の豚育ができるから
地代の高い都市近郊の飼料基盤に恵まれ
ない農家でも多頭飼育ができる。現に、
この型の多頭肥育農家の優良事例も少な
くない。

反面、考えられる不利なことは、
① 素牛が今かりに二〇一三〇カ月の
月令とすれば、この月令になるまでの過
程で、育成を担当した農家は、何ら畜産
物を生産しない非生産的なムダ飼いを一
年もそれ以上もしたことになり、この点
が何よりも産牛経済上不合理である。
② 素牛になるまでに、子牛のせり市
場で一回と、その後少なくとも一一二回
農家を転売されたと見なされ、そのつど
輸送費や手数料が素牛代に加算されてい

また、牛の月令、体格、体型資質などの規格が揃いにくいこととも、多頭飼育する上の難点となろう。

このようなわけで壮令肥育は将来減少する見通しがもたれている。

去勢牛の若令肥育は、ふつう一八カ月今までに体重四五〇キログラム以上の肉牛にするものであるが、もし、これらの牛の中で発育増体も、体型資質とともにすぐれたものがあれば、その後も引き続

(3) 雌牛の肥育

い 第13表 牛における
て 肥育と飼料消費
五. との関係

肥育日数	(日)	体重 Kg	穀物量 に要し た Kg
	5 6	7.3 0	
	8 4	3.0 7	
	11 2	8.4 0	
	14 0	9.0 1	
	16 8	9.2 7	
	18 2	10.0 0	

1 理想肥牛

牛に於ける 肥育と関係	
肥育日数	(日)
	56
	84
	112
	140
	168
	182

じまんにする和牛の肉の中でも、特別上等の霜降り肉を生産するため、生体重三七〇—四二〇キログラムの未経産またはせいぜい二—三産の若雌牛を、一〇カ月から一年もの長い間かけて肥育するものである。しかし、このごろのように並みの牛肉さえ庶民の口に縁遠いとき、このような高級肉の需要はごく一部に限定されているので、この理想肥育は、從来からその銘柄を誇る一部の特定産地にまかせられればよい。子牛生産が急がれるおりから、素牛も少ないし、その上肥育技術にも特殊なものを要求される長期肥育であるから、多頭飼育向きでないし、どこで行なってももうかる肥育とは言えない。

和牛の肉は脂肪の交雑のすぐれた上等の牛肉であるが、これは和牛のもつ遺伝的な特質に由来するものであって、長期にわたる理想肥育がいつどこででも、どんな牛にでも通用する経済的な肥育法ではあるが、肥育末期になるほど単位増体当たりに要する飼料量が多くなっている。こ

りに要する飼料量が多くなっている。こ

よは、肥育が進んで本重が大きくなるほ

ど維持飼料として多くの栄養分を必要とし、肉の生産に廻される栄養分が少なくなるためであって、同書には「肥育初期には体重一キログラム当たり二一カロリーですんだものが、後期においては二五カロリイも必要とすることになる。」と単なる長期肥育の不利なことを述べている。

2

此牛の若令肥育は、体格、質質などとにかく欠点があつて、将来繁殖雌牛とするにはどこか不備があるというような雌子牛を素牛として、一ヵ年ぐらいたる長期間かけて体重四三〇キログラムといどの肉牛とする肥育であるが、肉用牛の子牛生産が急がれるとき、この肥育も一般的でない。この肥育で気をつけなければならぬことは、去勢牛の若令肥育と同じ飼い方をしたのでは、体格がじゅうぶんでき

（2）去勢牛の肥育		中) 濃厚飼料を節減して肥育できるので、山村や農山村の子牛生産地帯で一定の飼料基盤をもつ農家が、購入飼料となるべきである」と述べている。			
月令	0～3 1キロに 亘した	4～8 TDN	9～10 DCP	11～12 TDN	13～14 DCP
增 體	0.42	0.59	0.57	0.66	0.80
要 求 した	1.87	3.91	4.51	6.04	6.54

注：月令11カ月以降は夏期にはいる。
 (福島ら「乳用雄子牛の粗肉用肥育に関する研究」昭和38年) 年く少なくして行なえ
 る」と述べている。

② 粗飼料を多く用い（特に育成期間はあらゆる肥育型態に優先する見通しであることに異論はないだろう。その利点を挙げて見ると次のようなことであろう。

① 肥育効率が高いこと

子牛から肥育するので、肥育効率が高い。兵庫農大福島教授によれば、「どの家畜でも幼令期——若令期——壮令期と月令が進むにつれて、増体に要する飼料量は多くなるのが原則である」と、第一二表を示して、「若令肥育は去勢牛でも雌牛でも、牛の旺盛な生長力を利用して、理論的には最も合理性の高い肥育法とい

④ 畜舎その他の施設が余りからなくて、多頭飼育できる。
一方、若令肥育で問題となるものは、つぎのようなものである。
① 肥育期間が一年以上の長期にわたるので経営上能率的でない。
② 良質粗飼料が比較的多く入用なことである。特に発育の盛んな育成期には、牛はしっかりした体格をつくる基礎として、骨格をつくるためのカルシウム等の灰分や、発育に欠かせないビタミンAなどを豊富に含む良質粗飼料が必要である。
肉の繁りがじゅうぶんでない傾向がある。牛の色は年令の進むにつれて濃くなり、また、雄は雌より濃い。一般に生後一八ヶ月ぐらいで、生体重四五〇キログラム以上の肉牛になれば、肉色や肉の繁り、脂肪のサンなど精肉用として通用するようになるものである。去勢牛の若令肥育の仕上がりの体重の目標をここに置いてあるのは、このへんに基づいているわけ

2 牡令肥育
一定の発育をとげて体格のできたものを素牛として、半年以内という比較的短かい期間で仕上げる肥育であって、つぎのような利点があげられる。

力面からそういう制約をうけることにならう。そこで、若令肥育では育成期を優良草地に放牧することによって、労力問題を解決する方向で研究が行なわれ、成果を納めている。

従つて経済性は雄のほうがむしろよい。しかし、管理面では雄の中には性質の荒いものが現われやすく、飼養管理上取りあつかいに注意を要する。」などと、概要をこのように述べている。しかし、第一四表を見れば、いつの場合でも枝肉一キログラム当たりの単価は雌がいちばん高く、ついで去勢牛であつて、雄が最も安い値となつてゐる。

雄牛の肥育については、吉田正三郎氏（畜産の研究、第十九卷、第十二号）もその利点と欠点とをあげているので、それを述べれば、利点としては、
① 発育が盛んで増体が速い。
② 飼料特に粗飼料を多く食いこむ。
③ 飼料の利用性が高い。
④ 去勢の手間がかからない。
⑤ 体脂肪が少ない。（このことについては、同時に、脂肪の交雑(+)はペリー・グッドであり、(+)は脂肪が多く過ぎるとドイツのクリューガー氏が指摘したと述べている。将来参考とすべきことと思われるので、あえて記す。）

反対に欠点として挙げているのは、
① 管理に難がある。
② 枝肉の単価が安い。
③ 肉色が濃く、肉が硬く、きめがあらいい。

ここで、ついでに、それでは、あるて
いど発育をとげて、体格ができるまで去
勢しないで、雄牛の発育と去勢牛の肉質
とを折半して兼ねられないものか?とい
う考えが浮んで来る。中国農試畜産部
(和牛および飼料作物試験成績概要、昭
和四十二年十月七八ページ)による「晚
期去勢が増体と肉質に及ぼす影響(第一
報)」によれば、生後一五一七カ月の黒
毛和種九頭(いずれも産肉能力直接検定
に供用して、生後八カ月から半年間、濃
厚飼料自由採食として肥育されたもの)
を、三頭ずつ三区分し、去勢後三カ月肥
育、去勢後四カ月肥育および雄牛のま
ま肥育として肥育試験したところ、
① 去勢したための増体速度の低下は約
一〇・二二%であった。
② 生後八カ月から屠殺までの一日当た
り増体量は、去勢〇・八二一〇・九五
キログラム、雄〇・八五一・〇三キ
ログラムで、若令去勢牛の場合よりす
ぐれていた。
③ 一キロ増体に要した飼料量は、雄が
八・七キログラムに対し、去勢は一〇
・九キログラムで、約二〇・三〇%多
く要した。
④ 枝肉歩留りは去勢が六〇%台である
のに対し、雄は六三・六%であった。
⑤ 去勢により皮下および筋間脂肪量が
増加した。

子豚のタンス病にアリナミン

(狀元第五回)

子豚のダンス病にアリナミン

(獸医界第八四号)

子豚の先天性筋けいれん症は俗にダンス病とよばれており、この原因については現在までのところよく判っていない。ふつう種雄豚特に輸入ランドレース種を中心として発生する傾向が強く、血縁が重要な役割をもっているようであるが、突然的にあらわれる。

ふるえの軽いものは、ほ乳時に若干の介助を行なえば発育し、數十日ないし数カ月であまり目だたなくななるが、重いものは一腹全部が一々数日のうちに死亡することもある。

この症状を軽減させ、商品価値を

KK発売の併用に効果が認められている。「コルソン注」は脛筋内に「アリナミン注」は内股皮下に、一日目にコルソン注一mg、二日目アリナミン五〇注一〇mg、三日目コルソン注〇・五mg、四日目アリナミン五〇注一〇mgの二回くり返してだいたい治っており、更に症状が残ったものにもう一回アリナミン注の投与で長いものでも一五日目には治っている。経過のよいものでは一回のくり返しで治っている。以後再発の例はない。

なお、この試験例は短期間でありしかも供試頭数が少ないので、絶対のものとはされていないが、ダンス病に對して最も好結果をもたらした

薬品であるとされている。

「ナミン注」(兩者とも武田薬品工業

上らないうちに早く肉牛タイプになつてしまつて、期待する四三〇キログラム以上の一頭牛になりかねることである。かつて、岡山県和牛試験場で昭和三十九年に行なつた雌牛の若令肥育試験では、肥育期間三三〇日を三分して、それぞれ肥育前、中、後期とし、粗飼料は飽食ていどとした上で、濃厚飼料を対体重比それぞれ一・〇%，一・二%および一・六%と去勢牛の若令肥育のときと同様にした結果は、仕上り体重が三七六・八キログラム全期間中の一日平均増体重〇・六七キログラムであつて、かなり小さかったといふ成績を得ている。肥育前期の育成期には濃厚飼料を少なめにおさえて、良質粗飼料を多く食いこませ、骨格の形成をねらわなければならぬわけで、京都大学上坂教授によれば、雌牛の若令肥育の場合の濃厚飼料給与は、体重に対する割合にして、前中後期それぞれ〇・五七〇%、一・〇%および一・六%、一・八%が適当のように述べられている。

雌牛の普通肥育は、二
才二六二八才の経過

第2図

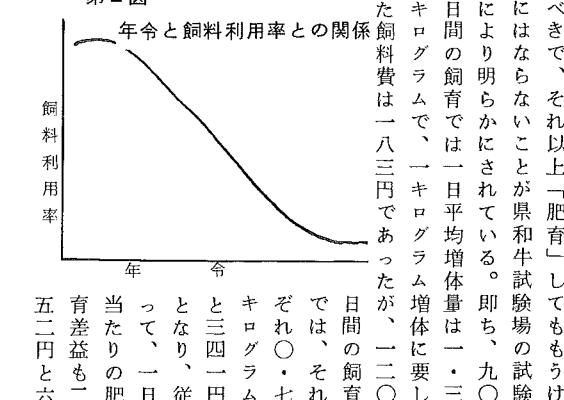
年齢と飼料利用率との関係

四・五産以上も子を産んだ、年令も一〇才またはそれ以上になった老廃牛は、第二図のよう、既に産肉能力がひじょうに低下していく、飼料効率はわるく、長くかかって太らせても肉質はそれほどよくならないで、澱粉質の安い飼料を主体として五〇・六〇日ないしせいぜい一〇〇日以内の「飼いなおし」に止めるべきで、それ以上「肥育」してももうけにはならないことが県和牛試験場の試験により明らかにされている。即ち、九〇日間の飼育では一日平均増体量は一・三キログラムで、一キログラム増体に要した飼料費は一八三円であったが、一二〇日間の飼育では、それ〇・七キログラム増体に要し、一日当たりの肥育差益も一二円と六五二円と六

けなければならないことは、不受胎と異った牛が妊娠しても困るし、ほんとうに不受胎の牛で「かも牛」などは肉の中へ脂肪のサンがはいりにくく、増体効率もよくなく、肥育の末期になっても上等肉の多い後軀への脂肪のまわりがよくないので、適当なところで肥育を打ち切らねばならないことだ。

4 老 廃 牛

第2回

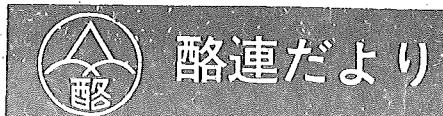


第14表 肥育牛の種別価格

年別	肉牛 1頭当たり			枝肉 1Kgあたり		
	♂	♀	♂	♂	♀	♂
昭37	106400円	120200円	91400円	373円	404円	390円
38	97610	118110	101130	393	437	408
39	95000	125000	102000	382	465	412
40	120000	150000	135000	480	556	520

田口氏（畜産の研究第21卷第1号）による。多量の利用性も多い。仕上がりについては、脂肪の沈着が多い去勢のほうが肥育度が進んでいるとするもの、いや、その反対に増体の多い雄のほうが肉牛らしいとするものと、まちまちである肉色は雄の方

雄牛の肥育の多いのは、鹿児島県の二万頭をはじめ、愛媛県などである。岡山県では雄牛の若令肥育は行なわれていないので、ここに言及する必要性も余りないと思われるけれども、順序として一応なるべく簡単にふれておく。



酪連だより



岡山県酪連では、昭和四十二年分の農課税について、中国各県の指定団体月以来再三持ち、緊密な連繋をとりながら検討を重ね、委員会事務局は広島国税と数次にわたり接衝を行なってきた結果別表一のような最終案が本年二月八日内に示された。

特に昨年は異常干ばつによる被害をくうったえるとともに、乳量、乳価、料費等について強い要望を行なってきるのであるが、別表二と比較していただけばおわかりのように、乳価の値上がりはたしかたないのであるが、固定経費も五〇〇円アップ、比例経費も一パーセントアップされているし、飼料費は値上がりではなく実際は若干値下りを見せていてあるが、昨年より一四・二ペーセントアップされている。また、昨年の干害が大きく認められ、飼料烟の所得は昨年より五、〇〇〇円ダウ

有利に決定

酪農課税

岡山県酪連では、昭和四十二年分の農課税について、中国各県の指定団体月以来再三持ち、緊密な連繋をとりながら検討を重ね、委員会事務局は広島国税と数次にわたり接衝を行なってきた結果別表一のような最終案が本年二月八日内に示された。

特に昨年は異常干ばつによる被害をくうったえるとともに、乳量、乳価、料費等について強い要望を行なってきるのであるが、別表二と比較していただけばおわかりのように、乳価の値上がりはたしかたないのであるが、固定経費も五〇〇円アップ、比例経費も一パーセントアップされているし、飼料費は値上がりではなく実際は若干値下りを見せていてあるが、昨年より一四・二ペーセントアップされている。また、昨年の干害が大きく認められ、飼料烟の所得は昨年より五、〇〇〇円ダ

別表1 昭和42年分酪農課税標準

適用区分	適用単位	適用見込標準	収入金			必要経費					差引所得金額
			乳量	単価	金額	公租公課	飼料代	償却費	その他	合計	
山陽	1頭当り 経費	46,000円と 収入金の44%	4,179	44.1	184,293	276	92,444	22,119	12,780	127,619	56,674
山陰	"	46,000円と 収入金の44%	4,188	43.1	180,502	276	89,401	21,818	12,923	124,418	56,084
飼料作物(年間作付のもの)											
9.91アール所得 山陽 2,700円 山陰 3,800円											
乳用牛子牛 1頭当り経費 11,500円と収入金の30%											

① 乳牛標準中、萩、長門は山陰に含み、飼料作物は山陰に含む。

② 乳牛4頭以上は、4頭目から1頭につき3,000円を控除する。

③ 自家飲用量は1戸当り200kg、育成哺乳牛1頭当り50kgとする。

④ 酪農の臨時傭人費(サイレージ、牧乾草調製等)は別途控除する。

計算方法

収入金=乳代+(自家用200kg+育成初生とく数×50kg)×単価

課税対象金額=収入金-(収入金×比例経費(44%)+固定経費(46,000)×頭数)-別途控除額

別表2

昭和41年分酪農課税標準

種目	区分	単位	標準	収入金			必要経費				差引所得額	
				乳量	単価	金額	公租公課	飼料費	償却費	その他		
乳牛	山陽	1頭当り 経費	固定経費 42,500円 比例経費 43%	4,088	38.86	158,680	270	80,967	19,098	10,808	111,143	47,717
	山陰	"	固定経費 42,500円 比例経費 43%	4,048	38.76	156,900	270	80,849	18,841	11,055	111,015	45,885
乳牛産	山陽	"	固定経費 11,000円 比例経費 34%									
飼料烟	山陽	10アード 当所得	7,700円	単作の場合 1/2								

(注) ① 乳牛4頭以上は4頭目から1頭につき3,000円を控除する。

② 自家飲用量は1戸当り200kg、育成哺乳牛1頭当り50kgとする。

傭人費は別途控除する。

その他牛馬耕賃、共済掛金、診療費、ミルカー、カッター、動力草刈機、クーラー、電牧設備、索道設備等は昨年どおり実費により控除する。

(○印は今年新しく認められたもの)

養鶏農協のページ

ニューカッスル病予防のため 生毒ワクチンの正しい知識を

（1） いは、業界で長い間強い論争がされたものでした。ようやく、昨年9月5日に至って、多くの制約を残しながら、一部生毒ワクチンの使用が許可されるに至りました。これをもって、生毒死毒ワクチン論争に終止符をうつものと評した人もありますが、事実はそうでないことが間もなく実証されました。論争が極めて観念的であったそしりを免れず、生ワク使用の賛否両論者とも、多くは研究不足であったと申せましょう。今でも、生きているウイルスを扱うのだからと、単純に割り切って生ワクを危険視する人もかなりあります。いずれも、反省期に入りながらも、実情把握には遠いといえるのではないでしょうか。

不活化ワクチンについては、養鶏試験場の例をみるとまでもなく、野外の失敗例が多く見聞されます。生ワクについても、問題が少なくないようです。民間養鶏団体としては、両者について考察を試みるのが当然でしょうがこゝでは、あえて生毒ワクチンについてのみ触れてみたいと思います。

生ワク使用の実際

昨年9月5日付け農林省令第41号で、家畜伝染病予防法施行規則の一部が改正され、ニューカッスル病予防ワクチンのいわゆる生ワクの使用は、鶏痘ワクチンと同様に一応自由になったわけです。生ワク使用可否論は、長い間激しい論争が行なわれていましたから、業界紙の一部では、これをもって生ワク使用論者の全面的な勝利で論争にピリオドがうたれたと報道したものもあります。しかし、実際は、生ワクが自由に使えるというのではなく、局長通達による指導という名目で、当時野外実験の終っていた海外メーカー二社製のHitchner BI Strainだけが許可され、しかも接種対象は、ブロイ

ラー用雛と採卵用28日齢以下の雛だけに限定使用が認められたに過ぎませんでした。それでも、その当時不活化ワクチンに対する信頼度に疑問をいだいていた多くの人々は、BI株はもちろん、生ワクの何たるかに充分の理解を持たないまま、あたかも特効薬のごとく迎えたものです。また逆に、同じように理解が足らないで、何が何でも危険だから使用反対という人も少なくありませんでした。いずれも、反省期に入ったといえそうですし、かえって“どうしてよいのか判らない”という嘆息もよく聞くようになりました。そして、自分を護り他に累を及ぼさないという伝染病予防の鉄則が、充分理解されていないのが現状でしょう。

今になっても、生ワク使用を認めないことを指導方針としている

農業經營からみた

耕種と畜産の結合について

かもしないかこの点よくよく再考すべきである。

(一) 日本の農業は、一部を除いては、耕種部

々と分離していった。かつて中国農試で、島根県隱岐の島の農業実態調査の報告を行ったことがある。それによると、著しい結合形態はとつてないが、焼畑+牧畑の畑作では少なくとも、焼畑による食料作物（豆類、ヒエ、粟等）の後作として当分の間その耕地は『牧』として利用されていたということである。

(?) 方式によつてその地方の原野や林間を利用するか、大湿地を利用するかとにかく、『飼料としての草』『年間放牧力の有無』『管理労力の節約』の三つを主題として、原野の状況により、適当な頭数の肉牛が放牧飼育されていた。

世界の畜産を見ると草（飼料）資源の豊富な猶かつ家畜の衛生状態のよい気候条件のところにその繁栄がみられている。こととも思えば日本の気候条件、地理的条件はむしろ、家畜飼育には最適とはいひがたい。

このような日本的条件のところに育つ畜産は『資本集約的単一経営』であり、悪口は言われても『飼料を購入して能率的に肉に変える経営』が企業として成立するのである。

『牧』として利用されていたということである。

の型態による利用方式は極めて最近のこととで、古くからは、生産物や廃棄物を通じての結合で、土地利用面からの結合は見られなかつた。

山林一帯における『飼料源の有無』である
一冬越せば、骨と皮に化けるような草資
源より他ないところに、或いは、牧草を
播き飼料作を栽つてやるのだという意目

所感をのべたがご批判願いたい。

文
告

卷之三

一 醉農見て歩き

(一)

脚注

A detailed line drawing of a cluster of small, circular, interconnected structures, possibly representing a colony of microorganisms or a specific type of biological material.

○基礎飲料の問題

使つてお叱りを受けるかも知れない。飼料の一般的考え方からすれば、粗飼料と農

厚飼料とすることが正しいのかも知れないが、しかし考え方によると、現在の

栽培飼料作物、栽培牧草と藁稈類とをいっしょにして、粗飼料と考えることにはどうしても賛成できない。栽培牧草、飼料手当のとき麦草直営、麦草販賣は別物

米作物の栄養価値は、藁稈類とは同列のものではない。それを粗飼料という言葉でかたづけるところに、今日の飼料問題

の根本的な誤りがあるようと考えられる。そこで私達は栽培牧草、栽培飼料作物を基礎飼料と呼び、藁稈類のようなものを粗飼料と呼ぶことにしたのである。

限つて、一飼養標準を使ってみても、乳は出ないから、計算をするのは止めました。」という言葉が出てくる。牛に完全に食わしてはじめて役に立つ飼養標準を、残食量も知らないで、乳が出ないといわれたのでは、何のための飼養標準かといいたくなる。こんな話は各所で聞かれるところをみると、指導者にも責任があるようと思われて仕方がない。

もちろん指導者は必ず、「飼養標準はあくまで一つの標準であって、牛の個体によって差があるので、個体を見ながら加減してほしい」と附け加えての話はしているはずであるが、この附言が抹殺されているとすれば、指導が足りなかつたかと反省させられる。

残食量が気にならないような人でも、飼料作物や牧草の収量は気になるらしい。収量をあげるためにには、どんな種類のものを作付けしたら良いかという質問は隨所で受ける。しかしいくら収量をあげてみても、利用方法を誤って残食量ばかり出していたのでは、何のための栽培飼料かといいたくなる。栽培飼料は利用目的によって、刈取時期も異なるし、栽培方法も違つてくるはずである。利用目的に合つたようにしないから、残食量が出たり、むだな労力をかけるようになるのである。

放棄した水田は各所に増加してきたが、レンゲを付けるのならば貸してくれるが、イタリヤンライグラスを付けるのならばお断りというケースが多い。イタリヤンの跡の水稻はどうも成績が悪いというのである。酪農家は結構水準並の水稻の収穫をあげているのであるが、一般農家はどうも敬遠するのである。

稻作の技術者にいわせると、この問題はすでに解決しているといわれるが、収量四／五トンの場合は問題はないとしても、裏小作で土地まで借りて栽培するとすれば、少くとも一〇トン以上とらなければ借りた価値はないのである。どうやらこの辺に問題が残るらしい。幸い農業試験場でもこの問題をとりあげていただいて、実験圃場で試験をしていただくなつたので、その結果を待つことにしたい。裏小作にイタリヤンが入るということになれば、水田酪農もとつ伸びることであるうし、經營の方式ももつと変つてくるはずである。

“酪農。養鶏機ならおまかせ下さい

農業機械ならなんでも揃う店

岡山市柳町二丁目二の二

小六農機株式會社

TEL 岡山(24)0307代 岡山市外専用 11
営業所 高梁・金川・児島

白銀川 1996

ガスの根釧原野に六ヶ月、私は
酪農精神を学んだ



岡山県和気郡備前町穂浪

青年酪農家 藤原保

私は貴重な体験をし
岡山県畜産会にお世
が北海道の東部、根
てつもなく広い土地
岸郡浜中町西円朱別
搾乳牛二七頭、育成
地四五ha）に研修生
、ようやく夏らしく

私は貴重な体験をしてきました。
岡山県畜産会にお世話ををしていただき
私が北海道の東部、根釧原野と呼ばれる
とてももなく広い土地の、ある酪農家、
厚岸郡浜中町西円朱別の金内喜義さん方
(搾乳牛二七頭、育成牛、雄牛二三頭、
草地四五㌶)に研修生として入農したの
は、ようやく夏らしくなりかけてきた昨
年の七月十七日で、

ので、行きはきばつて
東京から飛行機で千歳
空港に飛びました。幸
い良い天気でしたので
広い石狩平野を一望の
もとに眺めることができ
きました。その緑に輝
やく美しさは格別でし
たが、広さでは根釧原
野と比べものになりま
せん。ここは平坦なと
ころですから、山は遠
くに見えておりますが、
そこまでゆくには車を
四時間もぶつ飛ばさな
ければなりませんでし

大型トテケタで

この地方は十月のおわりには寒さと雪のため凍結してしまい、翌年の四月のおわりがこなれば春はやってきません。そして五月下旬から六月上旬になつてやつと放牧が始まります。ですから、私が行つたときはちょうどサイロ詰めのまづきいちゅうでしたので、次の日からさつそく作業にかかりました。

大型トランクタ

一つぱいになるまでいつしょにグルグルついて廻ります。一つぱいになるとサイロまで、一・五・二kmの距離を走って帰り、サイロに草を移します。これを一台が一日に一〇一一二回往復します。だいたい一日に三haの草が詰め込みます。

私は、津山の酪農講習所で二年間学びましたが、その間にトラクタの運転も習っておきましたので、その点お手のものでした。それで家族の一員として他家へもどんどん手伝いに行き、かわいがられました。

(五) 放牧牛は草種、草生、地形などの状態により、育成牛（若令肥育牛）、子付き成雌牛、分娩直前の牛、妊娠牛、不妊娠牛というように牛群を区分して放牧するところが大切である。

また、月一回は定期検診、体重体格測定を行ない、事故を未然に防ぐこと。

⑥ 育成牛（若令肥育牛）

初期の発育を十分に促すため、育成牛、若令肥育牛は最良の草地に放牧し、所定量の補助飼料を与えて看視も十分に行なうこと。

⑦ 子付き成雌牛

育成牛または若令肥育牛は、初期放牧時下剤する場合があるため、強度の下剤が長びくと発育不良になるため、乾草、糞わらなどを給与する必要がある。

また、草地に放牧した場合、D・M・T・D・Nが不足勝ちなので、濃厚飼料の給与（体重の〇・五～〇・七%）が望ましく、簡単な飼料補給舎を設置し、運動スタンチョンで個々の牛へ所定量を給与する。なお、鉱塩を常置し、水の補給は忘れてはならない。

科学的に飼養するための 新しい肉用牛の飼い方

子牛の発育を促すため、比較的平坦地で良好な草地へ放牧して、放牧による子牛のエネルギー消費を少なくする。また、放牧地の一隅に子牛のみが出入りできる

(1) 一草不採食の原則

(一) 病害虫の防除

(1) 一草不採食の原則
子牛の発育を促すため、比較的平坦地で良好な草地へ放牧して、放牧による子牛のエネルギー消費を少なくする。また、放牧地の一隅に子牛のみが出入りできる柵を設け、柵内に補助飼料を与えるクリープフィーダーを作り別飼いをする。

(2) 分娩直前（二ヶ月）
分娩後の種付けを良くし、胎児の発育を促すため、分娩後に濃飼を多給するより、分娩前二ヶ月間放牧中に濃厚飼料を与えることが望ましい。

(3) 妊娠牛（妊娠初期）
妊娠初期には維持飼料程度でよいので、優良草地は育成牛用にあって、妊娠初期は比較的の野草の多いところへ放牧し、必要があれば掃除放牧等にも利用する。

(4) 不妊牛
発情がわかり易く看視し易いところへ放牧し、種付け、治療ができる限り込み柵を設置すること。

(5) 短期間利用の原則
家畜の嗜好は、若い草に向けられるで、良質の草を最大量採食しうるようすること。（頭数に対して、牧野が広ぎたり、狭すぎるときはこの原則は破れる。）

(一) 病害虫の防除

反此牛分娩直前の如母牛不妊牛というよう牛群を区分して放牧するこ
とが大切である。

また、月一回は定期検診、体重体格測定を行ない、事故を未然に防ぐこと。

(7) 育成牛(若令肥育牛)

三、放牧の原則

平均気温六℃以上になり、草丈が二
cm 程度になつたら軽度に放牧を始める
草丈は三〇 cm 以下で利用し、五〇 cm
上に伸ばし過ぎないようにして、一〇
当り産草量は常に一、〇〇〇 kg 前後に

以上、簡易造成草地の管理について述べてきたのであるが、放牧技術は単純なものでなく、複雑な要素がからみあってるので、細心の注意をもつて放牧場の種する。

(イ) 若令肥育牛は最良の草地に放牧し、所定量の補助飼料を与えて看護も十分に行なうこと。

牧草の再生力の根源は、根に蓄積された栄養分であるから、放牧と放牧との間に十分な休養期日をとり、根に十分な栄養分の蓄積をはかることが重要である。

四、草地の管理

新

☆ いよいよ ました ☆

肉用牛經營(子牛生産經營)技術指導指標

定価150円 (送料45円)

申込み先 岡山市桑田町1の2

岡山県畜産会(22) 8575
口座(岡山) 8575
(前金にてお願いします)

作 製　　社団法人 岡 山 県 畜 産 会

製作担当者	林 正夫 (責任者)	渡辺 滋樹	嘉寿 順栄
	栗山 光春	安増 莊一	梶並 嘉芳
	片寄 功	大本 黙	
作製協力者	和田 宏	渡辺 明喜	
協議機関	岡山県畜産課、農政課、普及教育課		

- 標準技術体系
- 飼料基盤
- 所要労働力
- 牛舎と他の施設
- 子牛の育成
- 繁殖牛の飼養
- 老廃牛の肥育
- 繁殖のしかな
- 草地の利用
- 放牧衛生
- 放牧採草地
- 繁殖子牛の選択
- 草地の維持管理
- 収支の試算
- 問題点とその解説

合理的な養鶏経営を行う道しるべとしてどうぞ！

養鷄經營指導指標（改訂版）

作成責任者 川崎晃

価格200円(送料45円)

申込先　岡山県畜産会（22）8575
振替口座　（岡山）8575

新しい印刷方法で読み易い！
印刷実費でおゆずりします！

印刷実費でおゆずりします！

1部 150円(送料共)
申込先 岡山市桑田町1の2 岡山県畜産会
TEL. (岡山) 22-8575

作成責任者・岡山県常勤畜産コンサルタント

科学的に基礎知識を解説

上原茂喜

『このテキストは第一線の指導者を対象とし、農家で最も必要とされている事項に主体を置き、飼養管理を中心とした基礎的な事項をあげたものである。従来の指導はとくに基礎的な知識については農家が理解し難いという意味で簡単に結果だけ話すということまで終っていた。例えば家畜を飼うにしても基礎飼料何kgに濃厚飼料何kgを一日に三等分して与えればよいといった指導で、実際に牛が飼えるかということである。家畜は常に環境によって変化している。その時はそれだけのこととよかかったかも知れないが、次に何日か後にまた変化がくるが、その時農家はどうすればよいか解らない。しかも次の年にはまた同じことを繰り返えして指導を受ける、これでは何年牛を飼つても農家は自分で牛を飼うことはできまい。

が可能になり、その応用動作によつて銅
う確信と銅う技術が農家自身についてく
るのであるが、枝葉末節のことだけでは
銅い方の弾力性はなく、妙味のある銅い
方を把握することは困難である。しかし
ながら基礎的な知識を普及することは困
難で長時間かかるが、畜産をよりよく発
展せしめるためには、ある程度の科学的
な基本を滲透することが大切であると考
えられる。

そこでまず牛を銅う者が知らなければ
ならない牛という動物の生理についての
解説から始め、特に大切な子牛の育成方
法、繁殖雌牛の銅い方、更に最近重要な
されてきた牧野と放牧について、細かい
点までも、極めてわかり易く解説を試み
ている。今までの参考書でよく解らなか
った人もきっと理解でき、初めて科学的
な銅い方をマスターすることができるも
のと確信する。』

岡山畜産便り（三月号）
（通卷第百八十八号）

昭和四十三年三月一日發行

発行人 惣津 律士

編集人 知毅

発行所 岡山市桑田町一の二

岡山県畜産会

電話 岡山⑧八五七五番

振替 岡山八五七五番

印刷所 岡山市内山下七七

ふじや高速印刷

電話代表四九五一番

一部五十円（送料共）

岡山県畜産会では、岡山県、その他の関係機関の協力を得て、乳用雄子牛肉増産運動をすすめているが、昭和四十二年度のその総締めくくりである第一回岡山県乳用去勢牛枝肉共励会を二月二十一、二十二の両日、岡山市網ノ浜の県営食肉市場で行ない、盛会裏に終了した。全国で初めての試みであったので、生産者は自分の肥育している牛がどのようにになっているのだろうか、その成績をみようと小雪のちらつく中を熱心につめかけ、特に県北からは観光バスで乗り込んできた農協もあった。生産者、団体ともたいへんな熱の入れかたで、これから食肉供給に一つの道を開いた共励会であった。

枝肉価格も、時期的に消費が鈍るところであるし、輸入肉が放出されているなど条件は悪かったが、まずまずの値段がついた。

編集室から